

氏名

吉田和久

学位の種類	医学博士
学位授与番号	博乙第2195号
学位授与の日付	平成2年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	高齢者の変形性膝関節症に対する全人工膝関節置換術 —特に膝局所の骨粗鬆との関連について—
論文審査委員	教授 折田薰三 教授 寺本滋 教授 村上宅郎

### 学位論文内容の要旨

進行した変形性膝関節症に対する全人工膝関節置換術（以下TKR）は、成績も安定してきており、近年確立された治療法である。しかし、骨粗鬆をともなう高齢者では、人工関節のゆるみや沈下が発生しやすいことが考えられるが、今までTKRの術後成績と骨粗鬆との関連について調査した報告はみられない。

本研究では、65歳以上の高齢者の変形性膝関節症に対して行ったTKRについて、臨床的及びX線学的に調査し検討した。臨床評価は全症例では術前37.1±10.5点が追跡時77.6±10.9点に改善し、骨粗鬆をともなう群でも術前34.6±9.5点が追跡時78.5±10.6点に改善していた。しかし、追跡時のX線上明らかなゆるみや沈下がみられたものは全て骨粗鬆をともなう群であった。また、術後から追跡時において大腿胫骨角、胫骨板内側角または胫骨板後方角が5°以上変化したものは、骨粗鬆のない群ではみられず、骨粗鬆をともなう群では約半数にみられた。骨粗鬆をともなう群では、今後ゆるみなどの発生と共に臨床評価の悪化も疑われ注意を要する。

### 論文審査の結果の要旨

本論文は全人工膝関節置換術（TKR）の術後成績と骨粗鬆の関連について調査した、初めての報告である。術後3年以上平均6年の追跡調査のできた65才以上の20例27膝について臨床的、レ線的に検討している。臨床的には骨粗鬆(+)群も(-)群と同様に良く改善しているが、レ線上、(+)群では大腿骨部品のゆるみ、胫骨板の沈下が19%にみられ、さらに長期に追跡すれば、臨床的に悪化する危険性の大きいことを指摘している。臨床上価値ある仕事であり、本研究者は医学博士の学位を得る資格のあることを認める。